

学校評価報告書

重点目標	中期経営目標	短期経営目標	具体的取組	自己評価		次年度に向けての改善策	
				達成状況	評価		
学力の 向上	基礎・基本の確実な定着と、一人一人のよさを生かす教育	個別最適な学びと協働的な学びの往還を実現し、基礎・基本の確実な定着を目指した指導の充実	教師の専門性を生かし、教科担任制(理科・外国語)や習熟度別学習集団による指導、少人数指導の授業等、指導体制・指導方法を工夫	・感染拡大防止に取り組みながらの学習であったため、体験的学習の実施は難しかった。 ・3年生から6年生の算数習熟度別指導、外国語活動のT・T指導を実施した。 ・家庭の教育力が高く、学習習慣はおおむね定着している。	C	・新しい生活様式の中でできる体験的な学習に取り組むことができるよう、授業改善を行う。 ・習熟度別に学べる少人数算数指導を、次年度も3年生以上で継続する。	
		「分かる・できる楽しさと喜び」を体感できる日々の授業の充実	自ら学び考えることで「分かる・できる楽しさと喜び」を体感できる授業の充実に向けた計画・実施・評価・改善(PDCAサイクル)の日常化	・年度末のアンケート調査で、93%の児童が「説明や指示が分かる」と答え、89%の児童が「授業は楽しくできた」と答えた。	B	・『「分かる・できる楽しさと喜び」を体感できる授業』に向け、引き続き、計画・実施・評価・改善を行っていく。	
		個のよさを生かす教育の推進	ユニバーサルデザインの視点に立った授業改善を図るとともに、ICT機器・教材を活用して、子供たちに主体的・対話的で深い学びの実現	・児童全員が見通しをもって授業に取り組めるよう、めあてを明示した。 ・電子黒板は全ての教員が日常的に活用している。一人一台のタブレット端末の効果的な使い方について、検証・実践を重ねた。	C	・コロナ禍においても対話的な学びが実現できるよう、工夫していく。タブレット端末の特性を生かし、活動に組み込んでいく。	
		SDGsの視点に立った教育活動の展開	持続可能な社会の創り手となることが期待される子供たちへの質の高い教育の実現	・総合的な学習の時間や、各教科における取組を通して、SDGsに対する興味・関心を高めることができた。	B	・今年度の取組を振り返り、年間指導計画の作成に生かしていく。	
	ONLY ONEとしての 誠之小学校	新しい学校の創造と適正な運営	誠之小学校方式による「学校運営協議会」の充実	・学校運営協議会12回(うち書面開催4回)実施した。 ・改築工事について学校運営協議会で検討し、文京区学務課に意見書を提出した。	B	・令和5年度の竣工に向け、引き続き学務課との情報共有に努め、児童の教育活動の充実のために意見を伝えていく。	
			「生命(いのち)が輝く子供」をテーマとする校内重点研究の充実	道徳教育の充実を軸にした全学年を通したカリキュラムの実践	・道徳授業地区公開講座に向けて、全学級の担任が外部講師に指導案についての指導を受けた。	B	・互いに尊重し合い、支え合いでよりよい生活を築いていこうとする心情を養うため、来年度も研修に励む。
		特色ある活動の継続実施	「副読本『のびゆく誠之』」「誠之カルタ」を活用した指導 誠之田んぼでの稲作や江戸東京野菜の栽培、「和食の日」をはじめとする食育	・活動を工夫しながら、誠之カルタを使ったカルタ大会を実施し、児童が伝統精神を学んだ。 ・地域学校協働本部がPTAの親子〇〇教室を実施した。 ・5年生の田植え・稲刈り体験を実施することができなかった。 ・和食の日を実施した。	C	・引き続き特色ある教育活動を実施する。 ・4年後の150周年行事の円滑な実施に向け、学校運営協議会、学友会、PTAとの連携を密にして準備を進めていく。	
			義務教育9年間を見通し、学習規律の徹底を図る教育活動の充実	小・中学校間の連携による小学校から中学校への円滑な接続	・9年間使用するキャリアパスポートの重要性を共通理解し、学期に一度の振り返りを共通実践した。	B	・自身の成長を振り返ることができるキャリアパスポートを今後も活用し、確実に保管・受け渡ししていく。
			「子供を育てる」学校から「子供が育つ」学校への転換	知識を教えるだけでなく、子供たち自らが主体的に取り組む、自ら育つための基盤づくり	・「新しい生活様式」で制約が多かったが、なぜそのルールがあるのか、守ることでどんな利点があるのかを考えさせることも大切にし、指導してきた。	B	・子供を褒める3要素を励行し、児童の主体的に取り組んでいこうとする意欲を育ていく。 ・児童が認め合い、高め合う思考性や行動力をもつリーダーの育成を図っていく。
	豊かな 人間性の 育成	豊かな心と社会性を 育む道徳、生活指導	子供の生命・安全・健康への十分な配慮	子供たち自らが安全を確保することのできる基礎的な資質・能力の育成	・仮設校舎解体中に、敷地内にプラスチックの欠片が飛んでくる事故が1件あった。児童や教職員にけがはなかった。原因の追究と再発防止の徹底を要求し、改善を図った。 ・新校舎における避難訓練の在り方について、検討・実施・改善を試みた。	B	・引き続き児童の生命・安全・健康を守っていくため、敷地内の見回りや学務課への報告等を実施していく。
			自覚と自立の生活指導	「誠之の心得」に基づく、「誠之のきまり」をみんなで作る生活指導の徹底	・よい行為をする児童を全校朝会や学級の会で称賛し、広めることができた。	B	・児童自ら正しく行動したことを評価し、プラス思考の生活指導に取り組む。
			心にゆとりをもった楽しい学校生活と好ましい人間関係の構築	子供を褒める3要素(結果より過程を、自分よりも人のことを、模倣・空論より創造・実践を)、叱る3基準の励行(人権、生命、迷惑)	・褒める3要素を意識した生活指導を実践した。 ・スクールカウンセラーによる5年生の全員面接を実施した。 ・いじめの早期発見解決に向けて、児童へのアンケートを実施した。	B	・いじめの兆候を見逃さないよう、教職員のアンテナを高く、今後も事前指導に力を入れる。 ・保護者との連絡を密にし、問題解決に向けて協力する態勢をとっていく。
社会性と思いやりの育成			青少年赤十字(JRC)活動、ボランティア活動、環境保全にかかる活動等を保護者や地域の方々と実施	・青少年赤十字(JRC)活動に登録し、募金活動に参加した。保護者や地域の方々と協力しての活動は実施できなかった。	C	・年度当初にJRC登録式を行うことでボランティア精神を意識させ、社会性と思いやりの心を養っていく。	

(評価基準 A:十分達成できた B:概ね達成できた C:一部課題がある D:改善を要する)

学校名 (文京区立誠之小学校)

重点目標	中期経営目標	短期経営目標	具体的取組	自己評価		次年度に向けての改善策
				達成状況	評価	
地域との連携	子供たち・保護者・地域に開かれた誠之小学校	家庭・地域から親しみと信頼を得、誇りに思われる学校	学校経営方針・教育内容・方法、日常の子供たちの活動状況の積極的な広報・公開	・学校たより、保健たより、給食たよりの毎月発行をした。半年たよりは毎月に加え、長期休業日前や行事実施前にも発行した。 ・ホームページ上で児童の活動の様子を毎日更新した。 ・ホームページの活用(緊急連絡の発信)した	B	・ホームページの学年ごとの更新について、共通実践していけるよう検討する。 ・ペーパーレス化を順次進めていく。
		学校関係者評価の充実による学校評価の実施	より地域に密着した学校となるよう、学校評価の適切な反映	・学校関係者評価委員会を2回(うち書面開催1回)実施した。 ・学校評価の結果を公表する。	B	・学校関係者評価委員会や学校運営協議会の意見を教育活動に反映していけるよう、次年度も広く意見を聴取する。
		地域学校協働本部、PTA、誠之学会、町会等の諸事業への積極的参加	地域に根差した教育の推進と地域行事等への積極的参加の促進	・規模や時間を工夫しながら、親子〇〇教室、こどもひろば、外国語支援(AC)、図書館支援などを実施した。 ・NPO法人「えこお」と連絡・調整をし、放課後全児童対象事業を実施した。 ・改築工事に関わる意見聴取や学校支援検討を学校運営協議会で検討した。	C	・感染状況を見ながらの判断になるので、来年度も規模を縮小しての実施も視野に入れる。 ・読み聞かせ(おはなしの森)も再び実施したい。
教育環境の整備	施設・設備の効果的活用と児童に働きかける教育環境の整備	校舎、校庭、校内施設・設備の計画的・効果的活用	きれいな学校、清掃が行き届き整備された校舎・施設・設備 令和5年度に完成予定の学校改築を見据えた施設・設備の整備	・仮設校舎の環境改善に全職員をあげて取り組んだ。 ・災害時の避難について常時検討を重ね、毎月、計画改善を続けている。	B	・新校舎建設に関する意見調整を積極的に行い、学校関係者の思いをできる限り反映していけるように努める。
		教材・教具の創造・開発・活用	教育効果を高めるため、身近な事柄を取り上げたり、子供の興味・関心等を生かしたりするなどの創意工夫	・ICT機器を活用した教材の利用を進めるとともに、実物の提示を重要視して教材・教具の開発を進めた。	B	・引き続き、実感を伴った理解につながるよう、教材・教具の開発・活用に努めていく。
		清潔でさわやか、しかも子供たちに働き掛ける教育環境の整備	居心地、学び心地のよい教育環境の整備	・来年度学級数増を見越し、普通教室2つを増設してもらうよう要望を伝えた。	C	・再来年度の学級増に関しても相談を進めている。
		GIGAスクール構想が実現されることを最大限生かした学びの質の向上	ICT利活用のための基盤の整備と子供の情報活用能力の育成	・タブレット端末の日常的道具化を目指し、多くの授業で取り入れることができた。子供の情報活用能力が高まってきている。	B	・オンライン学習も含めた、より効果的な使用を目指していく。教員のスキルを上げるための研修と情報交換を重ねていく。
		「新しい生活様式」も踏まえた衛生環境の整備や、新しい時代の教室環境に応じた指導体制、必要な施設・設備の整備	子供たちの健やかな学びの保障	・担任や看護当番による生活目標周知は行われている。 ・マスクの直用、毎休み時間の手洗い、黙食など、感染予防のための行動を、徹底させることができています。	B	・二酸化炭素濃度計測器を活用し、安心・安全な生活環境を維持していく。そのために必要な設備等の購入について、学務課に相談していく。
組織力向上	組織の活力につながる効率的、効果的な学校事務・校務分掌	最小の予算で最大の効果をあげ得る予算執行	予算の重点的配分、計画的執行、節約等の実施	・必要であるかどうかを組織的に判断し、校長の決断を仰ぐことができた。	A	・使用していないときの教室の消灯、印刷部数確認、ペーパーレス化を意識していく。
		業務を見える化するとともに、会議を精選し、時間を有効に使う校務の効率化	開始時刻の厳守励行・事前資料、簡素提案、効率審議・報告事項、協議事項の明確化と電子会議化	・校務支援システムC4thによる情報発信は定着した。 ・職員会議において電子データの活用が進んでいる。	C	・会議の終わりの時刻を意識しなければならない。教務でそれぞれの提案にかかる時間を設定し、意識させていく。
		OJT実施体制の充実による「教育のプロ」としての教員の指導力の向上	明確な目標の下、教える側、教えられる側の双方の学び合い、高め合いを組織的・計画的・継続的に取り組み、校内における気付きを基に、業務改善に取り組む自立型人材育成	・週指導計画案の確認を適切に実施した。 ・区小研部長3名をはじめ、各教員がそれぞれの研究部の中心となって活動した。 ・東京教師道場2年目の教員が研究の成果を上げた。 ・月1回のOJT研修を実施し、教員の指導力向上に努めた。	B	・ねらいの明示、協働学習の設定、学習の振り返りという展開を意識させ、授業改善に取り組ませていく。
サービスの厳正(勤務時間、研修、文書・現金管理等)	サービス事故防止に向けた意識や自覚を一層高め、学校教育に対する信頼向上への不断の努力	・本年度、個人情報紛失を起してしまった。保管方法の改善、複数人による確認、定期的なチェックをし、二度とサービス事故を起こさない。 ・サービス事故防止研修で、不適切な指導や行き過ぎた指導、情報管理について意識を高めた。	D	・サービス事故防止の取組を継続するとともに、報告・連絡・相談を今後も徹底していく。 ・互いに見合い、意見し合える環境づくりを今後も続けていく。		

(評価基準 A:十分達成できた B:概ね達成できた C:一部課題がある D:改善を要する)